

調査からみる学校評価の現状と課題

1. 県内の取組状況

自己評価(教職員による学校評価)は、すべての小・中学校で実施されています。外部評価(教職員以外による学校評価)を実施している学校は、小学校が9割を超え、中学校も8割を超えるなど、数字の上では平成16年度と比べ順調に推移しています。

学校評価の公表に関しても、自己評価、外部評価とも公表する学校が増えています。ただ、外部評価の公表が小・中学校とも約9割であるのに対し、自己評価の公表は約5割にとどまっています。

公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況

平成17年5月1日現在

調査項目	小学校				中学校			
	実施している		検討している		実施している		検討している	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
自己評価 1	100%	100%	0%	0%	100%	100%	0%	0%
自己評価結果の公表	45.9%	38.7%	32.4%	41.3%	50.9%	47.3%	26.0%	33.9%
外部評価	93.4%	87.8%	5.9%	11.0%	82.8%	74.8%	15.4%	21.6%
外部評価結果の公表 2	85.8%	77.5%	6.6%	10.3%	90.0%	78.9%	9.3%	19.5%

1 実施しているとの回答は本年度実施予定も含む

2 で実施している回答した学校のみ

2. 教職員の意識調査

自己評価、外部評価が、数字の上では順調に推移しており、全ての教育活動にわたって評価が行われている一方で、多くの教職員は、現行の学校評価システムに課題を感じていることが明らかになりました。(P7 図1、2参照)

また、学校評価の有用感に関する教職員の意識は高く、積極的に学校評価に取り組んでいるものの、明らかにされた課題からは、何を評価し、評価した結果をどう生かしていくか、といった基本的なところで悩みを抱えている学校の状況がうかがえました。(P8 図3、4、P9 図5参照)

ここに注目！

- 教職員の7割以上が「学校評価」に課題を感じている。
- 「判断基準が明確でない」、「評価したことが改善に生かされない」を課題と感じている教職員が多い。

【質問1】学校評価を実施するに当たって課題と感じていることはありますか

5年目研修受講者 49名
 (小学校 24名、中学校 25名)
 10年目研修受講者 153名
 (小学校 74名、中学校 79名)
 20年目研修受講者 283名
 (小学校 160名、中学校 123名)
 回答総数 N = 485

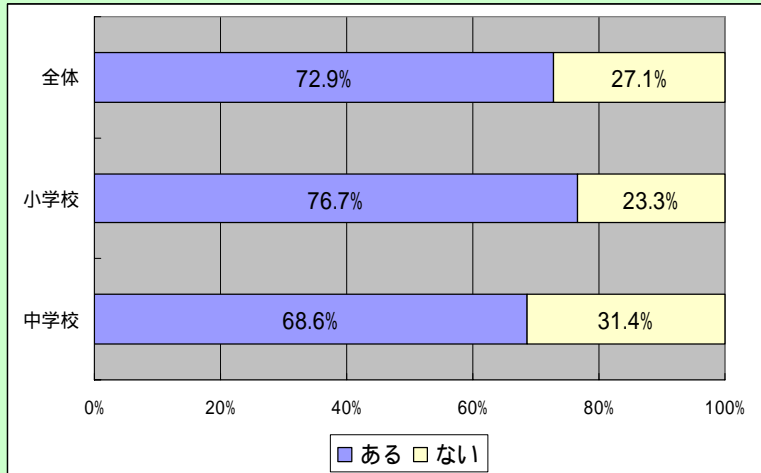


図1 学校評価実施における課題意識

【質問2】どのような点を課題と感じていますか

課題と感じている教職員数 N = 354

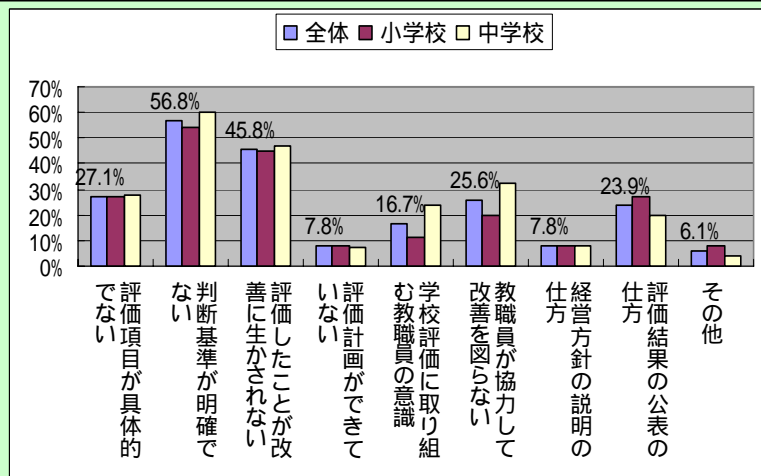


図2 学校評価の実施における課題意識の理由

学校評価について課題を感じている教職員の割合は、小・中合わせて 72.9% (小学校 76.7%、中学校 68.6%) です。課題と感じている全教職員 (354 人) を対象に「どのような点を課題と感じているのか」を尋ねたところ、「判断基準が明確でない」が最も多く、56.8% を占めました。「評価したことが改善に生かされない」ことをあげている教職員は、半数近くに上っています。以下、「評価項目が具体的でない」、「教職員が協力して改善を図らない」、「評価結果の公表の仕方」と続いています。学校評価はしたけれど、それらの結果を「どう改善に生かせばよいのか」、「どのような手順で改善策を策定すればよいのか」、「分かりやすく、しかも保護者や地域の人たちに理解が得られるような公表の仕方はどうすればよいのか」が、大きな課題になっていることが明らかになりました。

ここに注目！

- 教職員の75%以上は、「学校評価」に積極的に取り組んでいる。
- 積極的に取り組んでいると回答した教職員は、「課題が明確になり、解決に取り組める」(75.2%)、「学校行事等の改善に役立つ」(63.0%)、「学年経営、学級経営等の改善に役立つ」(44.4%)を理由にあげている。

【質問3】あなたは学校評価に積極的(意欲的)に取り組んでいますか

5年目研修受講者 49名
(小学校 24名、中学校 25名)
10年目研修受講者 153名
(小学校 74名、中学校 79名)
20年目研修受講者 283名
(小学校 160名、中学校 123名)
回答総数 N = 485

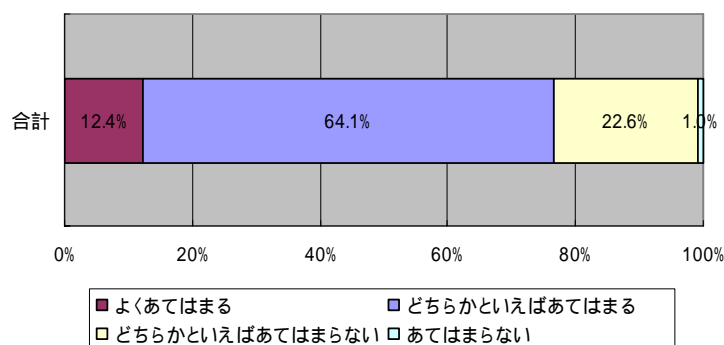
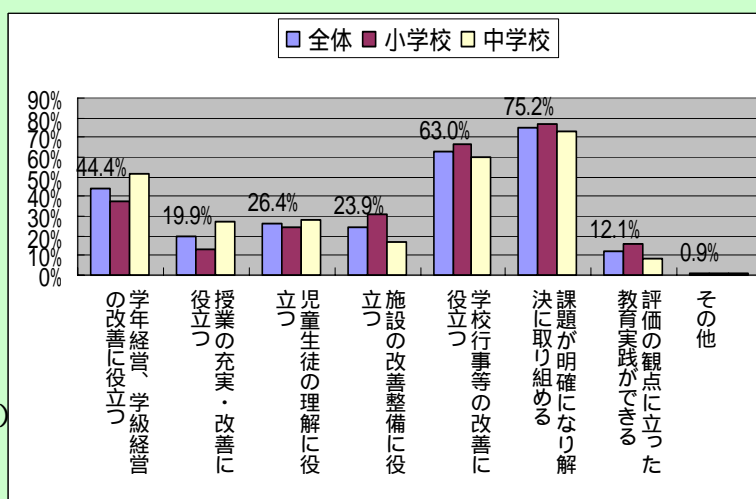


図3 学校評価への積極的な取組

【質問4】積極的(意欲的)に取り組んでいる理由は何か

積極的に取り組んでいると回答した教職員数 N = 371
(よく当てはまる n = 59
どちらかといえば当てはまる n = 312)



「学校評価に積極的(意欲的)に取り組んでいますか」の質問に、「よく当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した教職員は、小・中合わせて76.5%に上り、約4人に3人の教職員が、学校評価に積極的に取り組んでいることが分かりました。学校評価に積極的に取り組んでいると回答した全教職員(371人)に、その理由を尋ねたところ、「課題が明確になり、解決に取り組める」を理由にあげている教職員が最も多く、75.2%を占めました。以下、「学校行事等の改善に役立つ」、「学年経営、学級経営の改善に役立つ」と続いています。

このように、多くの教職員が、学校評価は教育活動の改善に役立つと感じています。

ここに注目！

- 積極的に取り組んでいないと回答した教職員は、「評価項目をじっくり検討する時間がない」(61.6%)、「評価が改善に生かされない」(54.5%)を理由にあげている。

【質問5】積極的(意欲的)

に取り組めない理由は何ですか

積極的に取り組んでいないと回答した教職員数 N=114
 (どちらかといえば当てはまらない n=109
 当てはまらない n=5)

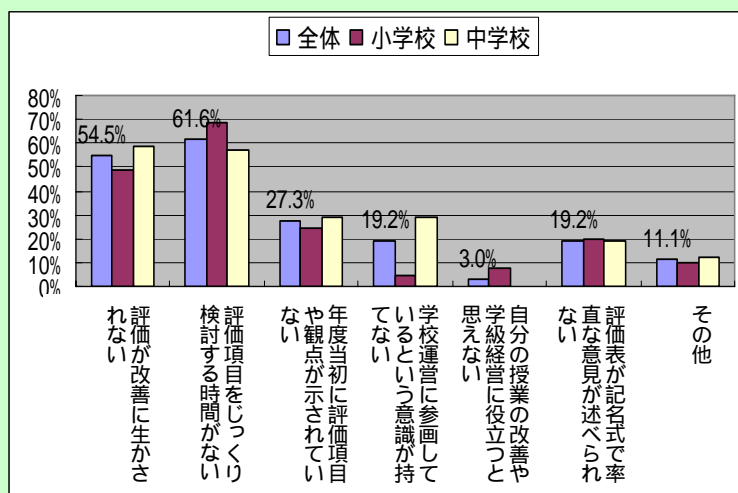


図5 積極的に取り組めない理由

積極的(意欲的)に取り組めないと回答した全教職員(114人)の内、半数以上が、「評価項目をじっくり検討する時間がない」(61.6%)、「評価が改善に生かされない」(54.5%)をその理由にあげています。その他、「評価項目が漠然としていて評価しにくい」等の自由意見も多くみられました。このような意識の根底には、負担感や多忙感、さらには評価されることへの抵抗感等があり、改善への期待が持てないなど、学校評価に対して懐疑的になっている状況があるようです。

学校評価とは、学校が、教育目標とそれに基づく教育活動などの学校運営の状況について自ら評価し、改善に生かす活動のことです。教職員一人一人にとって、評価が学校の改善に生かされているという充実感、達成感が味わえる取組とは、どのようなものなのでしょう。学校評価システムを生かして学校経営の改善を図るには、どのようにすればよいのでしょうか。

自分が評価したい、されたいと思える学校評価を目指し、全ての教職員が協働して教育活動に取り組めるよう、今一度、それぞれの学校に合った学校評価システムの在り方を見直してみましょう。